

日本人のルーツ

国立成育医療研究センター

藤本 純一郎

もうかれこれ20年以上、某大学の医学生を対象に白血病やリンパ腫の講義をしています。この分野の進歩は早いので最新の情報のうち適切なものを講義に盛り込むのは結構大変です。その中で変わらないというか、いにしへの昔から綿々と受け継がれてきた日本人のルーツのことに興味を持っています。

成人T細胞白血病の原因がHTLV-Iウイルスであることを解明したのは高月清先生と日沼頼夫先生です。一方で田島和雄先生はこのウイルスの疫学的な調査で大変興味深い研究を展開されました。HTLV-Iウイルスを持った人はわが国では九州、四国と北海道に多い。この話を最初に聞いたときに、大和朝廷や邪馬台国、古事記や日本書紀といった世界に通じる窓のような気がしました。私自身、子どもの時から古の時代への憧れみたいなものが少しあったためかもしれません。

私は大阪の少し東南にある布施という町で生まれ育ちました。中学生のときに親に買ってもらったドロップハンドルの自転車が大変気に入って、週末はよく遠征に行きました。行先は柏原（かしわら）という場所ですが、お目当ては大和川の川辺にある古墳。古墳といっても丘のような外観ですが、確かに進入禁止の立札があり有刺鉄線で囲ってありました。囲いが壊れているところから侵入して頂上に行くと石室と呼ぶのかどうか分かりませんが、細長い棺の形の石組みがありその中が橙色に塗られていました。もちろん雨ざらしなのでほとんど色は剥げていました。その石組みの周りの地面には勾玉が落ちていました。それを拾って持って帰るわけでもなく、そこに少し佇んで帰るだけなのですが、なんとなくその場所が好きで何回も行きました。進入禁止を破り、

墓を暴いたような少し後ろめたい気持ちで帰るのですがもう時効ですよ。

こんな体験があったので、古事記や日本書紀に出てくる国造りの話、日本武尊の蝦夷、熊襲の退治の話などに興味を持っていました。これらの記録には誇張もあるかもしれませんが、事実も含まれているでしょうし、それは近代的な方法で一部を証明することも可能と思っています。日本人のルーツを探る方法は昔からHLAのハプロタイプ調査が有名でした。その中で印象的な話は、本土日本人（本土人とも呼ぶ）と韓国人は近い、本土日本人と琉球人は少し離れるがアイヌ人とはもっと離れている、一方、琉球人とアイヌ人は共通の先祖から分かれた、というもの。HTLV-Iの話はこれをさらに裏づけ、より正確な日本人のルーツ探しに役立つのだらうと思います。

ここで書いていること、一部は裏付けもありますが、空想の部分もあります。昔々、畿内（私が子どものころは「きだい」と習ったが最近は「きない」と読むそう。）にのんびりとした人々が穏やかに暮らしていたが、ある時、武装集団がやってきて先住民を北と南に蹴散らした。北へ行ったのが蝦夷、南へのがれたのが熊襲、武装集団の最も勇敢な戦士が日本武尊、という嘘か本当かわからないストーリーになぜか惹かれるものがあります。実はHTLV-Iは日本人のルーツのみならず地球規模の民族移動の解明にも役立っています。ご興味ある方はぜひ調べてみてください。追伸ですが、私、岐阜大学医学部に入学したあとよく伊吹山に上りました。伊吹山は実は日本武尊が妖気の中てられて死んだところ。何かの因縁を感じますよね。